

＜このプログラムの取り組み＞

東北中央自動車道の整備を地域の活性化へ結びつけるためには、「沿線地域」に魅力を感じて訪れる交流人口を増やすことが重要です。この地域には、羽州街道の歴史や、明治初期に日本を旅したイザベラ・バードの足跡・物語があり、さらには温泉・街並み・自然・食・伝統芸能など、魅力溢れる観光資源が数多くあります。

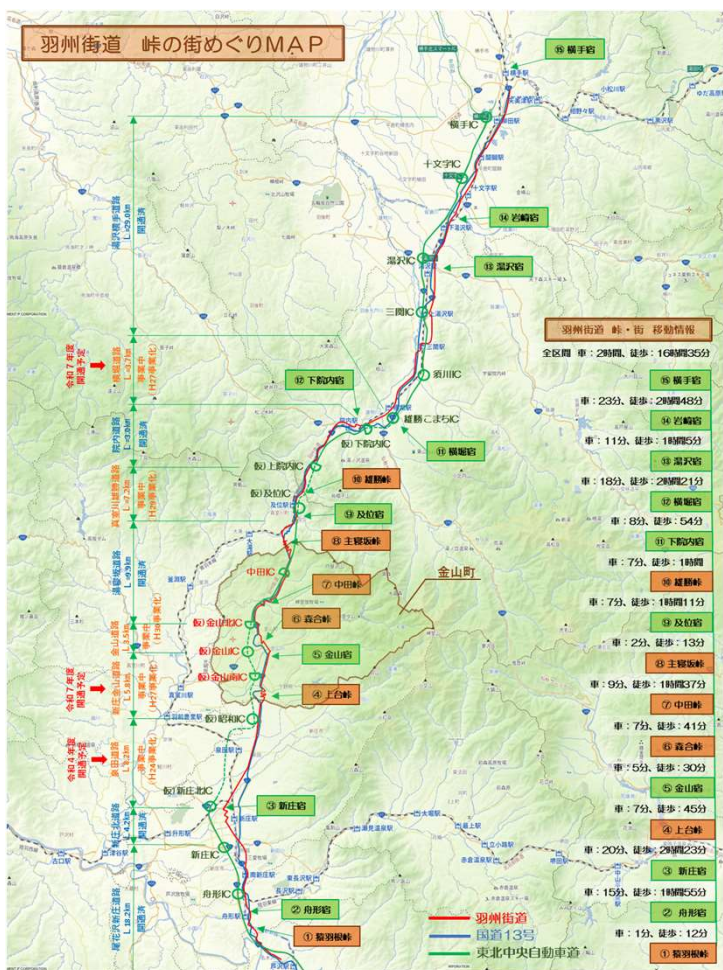
この分科会では、山形県北から秋田県南までの東北中央自動車道沿線の各地域が広域連携し、「ひとつにつながった文化圏」としてブランド化することを構想しています。今年度は各地域の観光資源を広域的に拾い上げて、目的を持ち訪問する人々を支えるツール（広域的な地域観光資源パンフレット）としてルート案を作成しました。

＜構想・実践メンバー＞

小林 和幸（環境整備課 管理係長）
長倉 章（環境整備課 環境下水道係長）
大場美穂子（総合政策課 総合政策係長）

●資源の拾い上げエリアは・・・
新庄最上地域、隣接する秋田県湯沢雄勝地域

●今年度の共通資源は・・・羽州街道



★旅行家イザベラ・ルーシー・バード

1878年（明治11年）7月、送別の伴を連れて一人の英米人女性、初めての奥羽・北海道の旅の途上、ここ金山町に二晩の宿をとりました。その時、彼女が「ロマンチック」と感じ、「美しく静かで健康的な場所」と称えた金山の街並みは今も変わることなく、訪れる人々をおもてなしの意をこめてくれています。



山形県金山町

▶ 上台峠 Uwadai

新庄市と金山町の境が上台峠である。国道13号新庄市赤城集落を過ぎ、右に向かう砂利道が旧羽州街道の道なりとなる。砂利道なりに切り通しを抜け、杉木立を渡り金山町上台集落に着く。上台峠は江戸時代には、三ツ峠（赤城、中ノ沢、新庄の三つを結ぶ）と呼ばれていた場所であったが、1880年（明治13年）、初代山形県令三浦通暲により、幅4間（約7.2m）の新道が整備され、これによって人々の往来や物資の輸送が活発化した。翌1881年（明治14年）には明治天皇が東北行幸時に通過しており、金山町上台集落の今道に記念碑が建てられている。

金山町上台地区では、旧道の保全活動が行われており、集落の入り口にある熊野神社から通ずる江戸時代の街道と明治新道を結んだ数珠道を整備している。また、熊野神社は境内にフナヒメノ木の巨木が直立し、鎮守の意を形づくっている。

明治11年、北国を旅した英米の旅行家イザベラ・バード女史は「日本奥地紀行」の中で、上台峠からみた金山の町を「ロマンチックな奇麗な場所」と記しているが、上台地区の熊野神社の鳥居前を過って、左手の山へ上ってゆく旧道からであったと思われる。

▶ 金山宿 Kaneyama

金山は戦国時代には山形の最上氏の家臣が鶴山に居城を構え、秋田・小野寺氏との戦いに備える要衝の地であった。江戸時代に入り、戦乱も収まったことから新庄藩の代官所が置かれた。秋田へ通ずる街道には森合峠、主波峠、雄勝峠など険しい峠が連なることから、藩政の重要な宿駅として発展した。特に、岸家や西田家、川崎家など数代にわたって宿屋を営み、新庄藩の要所として金山宿を営み続け、創設80年を超える金山宿の宿屋として知られている。明治時代に幾度かの大火を経験し、本陣などの旧建物から続く建物は残っていないが、街道沿いには明治期に建てられた商家が残っており、町が通る本宿の宿屋と相まって落ち着いた風情を感じる街である。

宿屋は明治17年に十日町、十日町、内町からなり、定期市が立っていたことがわかる。町内には水路が引かれ、として家々に引き込まれているものもあり、清流が生活に密着した役割を果たしていたことを知ることも出来る。

明治11年、英米の旅行家イザベラ・バード女史がロマンチックな町と感じ、北への旅行のため休息として数日滞在し、風景と人々の気遣いを文章に記した金山。今もこの印象を大事に金山は先人が守ってきた生活や風景を伝えていこうという思いがある。昔はどこでもあった普通の町だが、「いつか見た」を感じさせる宿場町である。



「バードが歩いた道程」

バードが歩いた道程



＜これからの取り組み＞

東北中央自動車道の全線開通に際しては、沿線各地域が道路利用者に「通過せずに立ち寄りた」と思われることが重要です。そのためには、沿線地域の自治体等が連携し、一体的な文化圏として協働して観光PR等をおこなうことが有効な方法と考えられます。

次年度以降は、そのための「広域連携の仲間づくり」を官民両方で図り、同時に情報交換を通してより具体的な広域観光ルートや連携イベントなどを構想・企画していきます。